

診療科特集 Vol.10

脳神経外科



毎週木曜日の合同カンファメンバー(脳神経外科/神経内科/救命救急科/研修医)

脳神経外科には6名のスタッフと1名のレジデントがおり、年間400～450例程度の脳神経外科手術を行っています。私たちが診療している疾患は、①破裂/未破裂脳動脈瘤など脳血管障害の顕微鏡下手術 ②脳腫瘍 ③頭部外傷 ④小児脳神経/先天奇形 ⑤難治性てんかんや⑥顔面痙攣/三叉神経痛などの機能的脳外科 ⑦脳動脈瘤や超急性期

脳梗塞に対する脳血管内治療など多岐に及びます。また近年、救命救急科や神経内科と連携した脳卒中ホットライン(NMC-SHOT)の症例数も増加しています。各専門分野の医師を紹介致しますので、お気軽にご相談いただければ幸いです。

平成28年度手術件数と麻酔

総手術数	全身麻酔	腰椎麻酔・硬膜外麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	緊急手術	待機手術
413	294	0	0	119	174	239

入院主要10疾患

疾患名	症例数
1) 脳腫瘍	40
2) クモ膜下出血	44
3) 未破裂動脈瘤	51
4) 脳動静脈奇形	7
5) 脳梗塞	37
6) 脳出血	73
7) 頭部外傷	65
8) 慢性硬膜下出血	80
9) 水頭症	14
10) てんかん	224

主要10手術

手術名	患者数
1) 脳動脈瘤頸部クリッピング	47
2) 脳出血血腫除去術	19
3) 脳腫瘍摘出術	27
4) 頭部外傷開頭血腫除去術	28
5) 慢性硬膜下血腫穿頭血腫ドレナージ術	73
6) 難治性てんかん手術	67
7) 水頭症脳室腹腔シャント術	45
8) 脳梗塞血管吻合術	5
9) 脊椎脊髄腫瘍など	3
10) 血管内手術(コイル塞栓など)	40

○堤 圭介部長(外来:火曜日)

専門領域は脳血管障害の顕微鏡下手術を中心として、脳腫瘍や機能的脳外科(顔面痙攣/三叉神経痛)手術などですが、最近では川原医長や日宇医師など若い先生方が頑張ってくれていますので、急性期脳卒中の手術やバイパス/頸動脈の手術はすべてお願いしています。1981年長崎大学卒業で、2007年4月より当院に初めて赴任しましたので、大村は11年目になります。きれいな公園や立派な公的施設があり、土地も広くてゆっくりとした時間が流れ、住みやすい街ですね。After 5の小料理屋さんでは地域の先生方と偶然お会いする機会もあり、カウンターでいろいろとご教示いただいています。医療センターは研修医のローテーションが多いので、脳卒中初期診療の教育や脳神経外科手術の紹介と参加/体験、学会発表/論文文化など若いfreshな医師達へのサポートも楽しくやっています。若い頃からの習慣で、毎朝病棟を回りながら脳外科の患者さんをはじめいろいろな科の患者さんやご家族とお話をするのですが、かえって僕の方が心を癒されることが多く、感謝しながらゆったりと歩き回っている今日この頃です。患者さんのご紹介や疾患に関するご相談など、私たち脳神経外科医の外来をお気軽にご利用いただければ幸いです。今後ともよろしく願い致します。

○牛島隆二郎病棟医長(外来:月曜日)

小児神経外科を中心にさまざまな疾患の治療に関わっております。専門医として一般的な脳神経外科疾患には一通り対応致しますが、外来では小児患児が圧倒的に多く、水頭症/二分脊椎/キアリ奇形/頭蓋骨形成異常など神経系先天奇形を始め、外傷/腫瘍など多岐にわたります。小児神経外科は他領域と比べ症例数が圧倒的に少なく、診療に携わる医師も少ないのが現状ですが、患児は少ないながらも必ず存在し、誰かが治療に取り組まなければなりません。数少ない症例をいかに漏れなくすくい上げ、適切に治療するか、毎日思慮しつつ診療に臨んでおります。宜しくお願い致します。

○小野智憲医長(外来:金曜日)

専門はてんかんの包括的診療です。てんかんは脳の機能異常が原因で、いわゆる発作だけでなく、認知や運動といった脳の働きにも深く関係し、生活の質にも影響します。したがって、発作だけでなく、患者さんが生活上何に困っているのかを理解し、包括的に治療介入することが望まれます。当施設では脳神経外科、小児科、神経内科、臨床心理士、薬剤師、看護師などチーム体制で診療に関わっています。適切な治療には、正確な診断が必要で、詳しい問診や検査が必要です。特に長時間ビデオ脳波記録はとても強力な診断ツールで、当施設での実施は年間400件を超

えています。治療面では、初期治療から、難治症例に対する高度治療まであらゆる年代の患者に対応しています。薬剤抵抗性の症例には外科的治療も積極的に行っています。特に、幼児を含めた難治性小児てんかんに対する外科治療は、西日本トップの症例数で、県外の患者さんが多いのが特徴です。てんかんで少しでもお困りの患者さんがおられましたら、お気軽にご相談ください。

○川原一郎医長(外来:金曜日)

専門領域は脳血管障害に対する外科的治療です(脳卒中の外科学会技術指導医/脳卒中専門医)。具体的には、脳動脈瘤クリッピング術、脳内出血の開頭血腫除去術、脳動脈奇形(AVM)摘出術、頸部頸動脈狭窄症の内膜剝離術、頭蓋内主幹動脈閉塞/狭窄症に対するバイパス術などを主体として、脳腫瘍摘出術、顔面けいれん/三叉神経痛に対する微小神経血管減圧術も行っております。私の手術に対するモットーは、常に患者さん御家族の身になって全身全霊で手術に臨み、確実な手術で根治、発症予防を目指すことです。脳外科的手術が必要な症例がありましたらお気軽にご紹介頂ければと思います

○日宇健医師(外来:水曜日)

脳血管障害(外科的/血管内治療)を中心に携わっています。特に専門医として脳血管内治療に従事しており、放射線科と連携し、脳動脈瘤/主幹動脈閉塞や高度狭窄/AVM/硬膜動静脈瘻など年間約50例行っていますが、患者さんの背景やご希望、合併症のリスクなどを総合的に判断して直達術(開頭術)あるいは血管内治療を選択しています。脳卒中は早期診断が重要であり、特に急性期脳梗塞では閉塞血管の再開通が早いほど良好な転帰が期待できます。当院では来院から閉塞血管の再開通までの時間短縮を心掛けており、僻地や離島においても医療の均てん化を目指し治療に取り組んでいます。

《以下：堤 記述》

大園恵介医師(外来:木曜日午後;再診のみ)は、一番若手で元気です。毎日の予定/緊急手術や急患に対応しながら、after 5の活躍は特に目覚ましく、研修医たちへの指導も熱心な先生です。聖隷浜松病院の内田大貴医師は、てんかん外科の研修のため本年4月から来ていますが、残念ながら9月いっぱいまで帰らなければならぬようで、10月からは聖隷三方原病院の方で勤務される予定とのことです。本田和也看護師は診療看護師(JNP)として、日々のベッドサイド診療や心のケアなどの面を厚くサポートし、患者さん/ご家族と医師、看護師の間を切れ目なくつなぐ役割を担ってくれています。スタッフ一同、地域の先生方とのチームワークで頑張っていきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願い申し上げます。